

子どもの日本語教育研究会第3回大会 2018年3月3日（土）聖心女子大学

熊本市の日本語教育

クラス担任との連携を図りながら



日本語指導センター校 小学校1校 中学校1校
指導者 小学校4名 中学校2名 指導協力員4名

日本語指導を受ける児童生徒 小学校32名 中学校7名
中国、インドネシア、フィリピンなど9カ国

センター校以外の児童生徒 センター校から指導者を派遣。
基本的には1対1で指導

実践的目的

日本語指導者がクラス担任との連携を工夫すれば、
児童生徒の日本での生活適応を助け、順調な日本語習得につながると考え、本実践を行った。

ポスター番号 11 熊本市立黒髪小学校 武田 東史

日本語指導者と学級担任との連絡会 7月下旬

中国語での授業体験

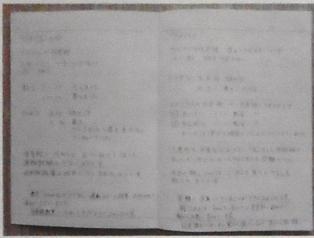
（もしも、中国の学校に転校したら）



何言っているのか分からない

外国から来た子は、こんな気持ちで授業を受けているのか

日常的、学期末に行うクラス担任との連携



クラス担任との連絡帳

日本語指導者→クラス担任

- 授業で勉強した内容や子どもの様子
- クラス担任→日本語指導者
- 学級での様子や子どもが日本語で話した言葉など

指導の記録

学期末に送付

- 授業時数や学習内容、頑張ったことや成長した姿などを記入

日本語指導者と学級担任との連絡会 7月下旬

班別協議



○学習支援

- 図や絵を活用（視覚化）
- 仲間づくり
- 周りの子ども達と遊ぶ環境を作る。
- その子の国の文化などを伝える機会を設ける。



○保護者との連携

- 周囲の方の協力を得てコミュニケーションをとる。
- 準備物については、写真データを送ると分かりやすい。
- 翻訳ソフトを活用する。

行事、研修会でのクラス担任との連携

日本語教室開講式 5月初旬



クラス担任へのお願い

- 子ども達が経験する壁への理解
- 仲間作り
- 保護者との連携
- 学校全体での支援

クラス担任部会の様子

日本語教室閉講式、発表会 2月下旬



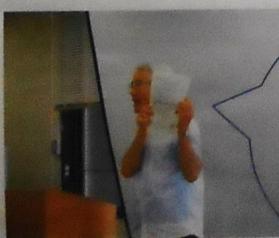
日本語を修了する中学3年生が日本での生活を振り返ったり、これからの夢を発表したりした。



日本語で発表
自己紹介、紙芝居、音読、母国語の紹介、修学旅行の思い出など

日本語指導者と学級担任との連絡会 7月下旬

熊本県立大学教授 馬場先生の講話



- 子どもは言語環境の中に入ると自然に身につける力を持っている
- 担任の役割として、子どもが安心して過ごせる場所を作ること

成果

・クラス担任との連絡ノートや指導の記録

子どもの様子をお互いに把握できる。会って話すときも、連絡ノートに書かれていたことを話題にできる。

・日本語開講式の分科会

クラス担任として取り組んでほしい内容をお伝えすることにより、日本語を学んでいる子ども達への理解や指導につながっている。

・日本語指導者と学級担任との連絡会

①中国語の授業で、言葉が分からない子どもの気持ちを感じてもらつた。

②馬場先生の講義で、子どもが自然に身につける力、担任の役割などが伝えられた。

③班別協議では、普段悩んでいることや困っていることが解決できた。

・日本語教室閉講式、発表会

子ども達の成長や頑張りに先生方が感動されている。

日本語教室への理解や日本語を学んでいる子どもへの寄り添った指導へつながっていることがアンケート結果などにより分かった。

課題

・年度途中で外国から転校してくる子ども達もたくさんいる。新しくクラス担任になった先生へのサポートが必要となるべく。

・来日したばかりで、日本語でコミュニケーションがとれない子どものクラス担任は、とても悩みが多い。授業での自習内容、クラスでの仲間づくりなど、学年に応じた研究をしていかなければならない。